



【坂本の学区】

坂本は大津市の北部に位置し、比叡山麓の一角の美しい琵琶湖が見える丘陵地にある。また、坂本学区は古くからの文化財、旧跡も多く、石積みの町としても有名である。四季それぞれに趣があり、訪れる観光客も多い。令和7年3月、坂本小学校は開校152年を迎えた。児童数662名（令和7年10月1日現在）

【学校教育目標】

心豊かに たくましく

学校の使命（目指す学校像）

子どもたちが「学びたくなる」学校
保護者が「通わせたい」学校
地域が「誇りに思う」学校
教職員が「勤めたい」学校

【重点事項と方策（具体的教育活動）】

さいごまでやりぬく

□『5つの心得』の徹底

〈あいさつ はきもの そうじ 時間 人〉

からだをきたえる

□体育授業の充実 □日常の運動習慣

□健康教育、食育 □安全、防災教育

□心の安全教育

もとめてまなぶ

□坂小スタンダードの継承

□読書力を高める

□ことばの力を付ける

□ICT活用力

□教科担任制と交換授業

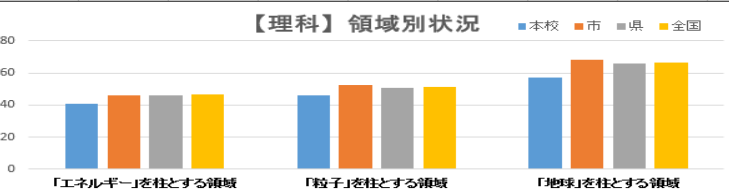
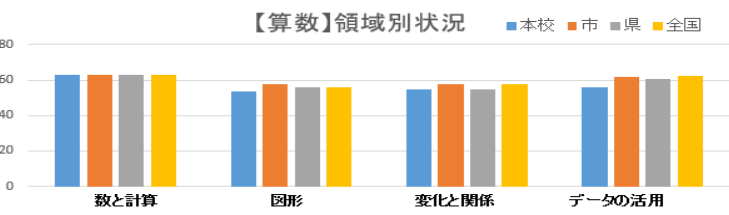
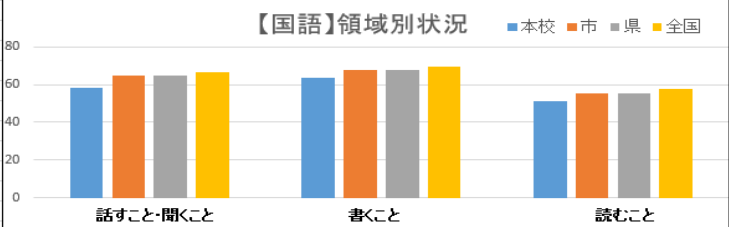
とも（人）をたいせつにする

□開かれた学校の実現〈持続可能な取組〉

□特色ある学校づくり

〈地域・保護者との協働実践〉

〈歴史・人・文化と触れ合い未来につなぐ〉



【今後の重点取組事項】

〈学校での授業改善〉

- ①「坂本小スタンダード学習」（全学年で共通した系統性学習スタイル）の継承 ②自ら進んで学べる学習環境づくり、個の課題に応じた習熟度学習の更なる充実
③語彙力を高め、自分の考えや思いを書く力の育成 ④文や図、グラフなどから必要な情報を読み解き、それを基に自分の考えに根拠をもって発信する力の育成

〈家庭での学習環境改善〉

- ①学習の習慣化（反復練習による学習内容の定着化・家庭学習の目安：学年×10分間の共有・自主学習システム、eライブラリの活用）

〈学校・家庭・地域の改善〉

- ①情報モラル学習の充実〈個人情報の保護・SNSの使い方等、トラブルを防ぐために〉 ②読書活動の更なる推進（図書室の朝開放・電子図書の活用）
③基本的生活習慣やルールの徹底（5つの心得）

【質問紙調査から見えてくる本校の特徴】

全国平均よりはやや低いが、自己肯定感を持ち、将来に夢や目標を持っており児童の割合が多いことがわかる【グラフ①②】。このことを生かし、さらに主体的に学んだり、生活をより良くしたりしていこうとする態度を育てていきたい。また、困りごとや不安がある時に、学校の職員にいつでも相談できると考えている児童の割合は、全国平均に比べてもかなり高い【グラフ③】。児童にとって、学校が安心してすごせる居場所であり続けるために、今後も一人ひとりに寄り添った、あたたかい関わりを続けていきたい。

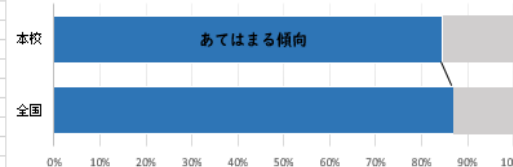
日々の学習に関しては、前向きに、自分なりに工夫して授業に取り組んでいる児童が多い【グラフ④】。しかし、家庭学習の時間は全国平均に比べて短いことから【グラフ⑤】、自分で学習を進める力をつけていくことが必要であり、学校と家庭の連携をさらに深めていきたい。

読書活動については、学校としても大切にしている取組の一つであり、習慣化を目指している。毎日の朝読書だけでなく、読み聞かせや、朝の図書館開放など、保護者や地域の方々の力も借り、さらに電子図書館サイトの活用も進めるなど、様々な取組を進めている。読書が好きだと答える児童の割合は、数値としては全国平均より低いが【グラフ⑥】、経年変化で見ると、長時間読書をする児童の割合は増えてきており、今後も取り組みを進める中で、読書に親しむ態度を育てていきたい。

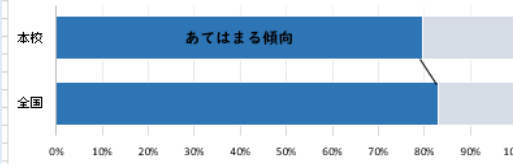
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という質問に対しては、全国平均よりも低いものの、8割に近い児童が肯定的に答えている【グラフ⑦】。坂本小学校は、様々な面で地域と連携した取り組みが進められている。また、歴史的にも、地理的にも地域資源が豊富にあり、山王祭など子どもたちが楽しみにしている大きな地域行事が身近にある。そういった「坂本ならでは」の特徴を生かし、更に学校と地域の連携を進めるとともに、地域を知ること、参加することこそが、社会とつながる第一歩であることを伝えていきたい。

GIGA スクール構想による「一人一台端末」が導入され、数年が経過した。【グラフ⑧】の結果からもわかるように、坂本小学校では積極的に機器を活用し、子どもたちの情報活用能力の育成に努めている。ただ使えるようになるだけでなく、リスクもしっかり伝えていきたい。

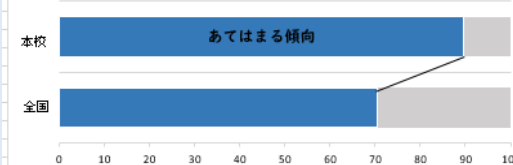
①自分にはよいところがあると思う



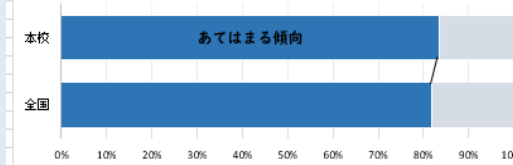
②将来の夢や目標を持っている



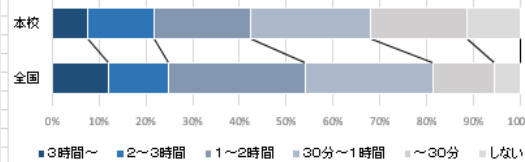
③困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



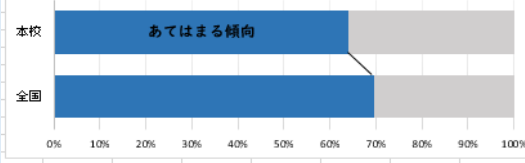
④自分で学び方を考え、工夫することができる



⑤平日一日あたりの勉強時間



⑥読書は好きか



⑦地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか



⑧ICT機器を使って情報を整理することができるか

